

## 2. 流域及び河川の自然環境

### 2-1 流域の自然環境

筑後川は、その源を熊本県阿蘇郡に発し、高峻な山岳地帯を流下して、日田市において玖珠川を合わせ典型的な山間盆地を形成し、その後、再び峡谷を過ぎ、佐田川、小石原川、巨瀬川、宝満川等多くの支川を合わせ、肥沃な筑紫平野を貫流し、さらに、早津江川を分派して、有明海に注いでいる。

源流から夜明峡谷に至る上流部は、日田美林として知られるスギ、ヒノキからなる豊かな森林に恵まれた山間渓谷を経て玖珠川を合流し日田盆地を貫流する。河岸にはツルヨシ群落、ネコヤナギ等のヤナギ、アラカシなどの高木林が見られる。礫河床の流水域にはオイカワ、カワムツなどが生息し、砂礫河床の早瀬にはアユ、水際の抽水・沈水植物生育地にはオヤニラミなどが生息している。また、水のきれいな砂礫地を好むゲンジボタル、カジカガエル、サワガニなどが生息し、渓流にはカワガラス、ヤマセミなどが生息している。

夜明峡谷から筑後大堰までの中流部は、九州を代表する穀倉地帯である筑紫平野を緩やかに蛇行しながら流れ、瀬、淵、ワンド、河原等の多様な動植物の生息・生育環境を形成し、流域最大の都市である久留米市街部を貫流する。水際にはエビモ、ヤナギモなどの沈水植物、低水敷にはツルヨシ群落など、高水敷にはオギ群落などが分布し、河岸にはアカメヤナギ、エノキなどの高木林が点在し、高水敷には九州北部では少ないセイタカヨシ群落も分布する。河川には、流水域を好むオイカワ、緩流域を好むウグイ、フナ類などが生息し、早瀬はアユの産卵場となっている。また水際の抽水・沈水植物生育地にはオヤニラミ、キイロカワカゲロウなどが生息している。陸域では、カワセミ、河原で繁殖するコアジサシ、ツバメチドリなどの鳥類、オギ等高水敷のイネ科植物に巣をつくるカヤネズミなどの哺乳類が生息している。

筑後大堰より河口までの下流部は、クリークが発達した筑紫平野の中を大きく蛇行しながら有明海へと注ぎ、23kmに及ぶ長い区間が感潮域で、河口を中心に干潟が形成されている。水際にはヨシ原が広がりアイアシ等の塩生植物群落が分布し、エツ、アリアケヒメシラウオなどが生息している。干潟にはムツゴロウ、シオマネキ、ハラグクレチゴガニなどが生息し、シギ・チドリ類などの餌場、休息場等としても利用されている。高水敷にはカササギやヨシ原に営巣するオオヨシキリなどの鳥類が生息している。

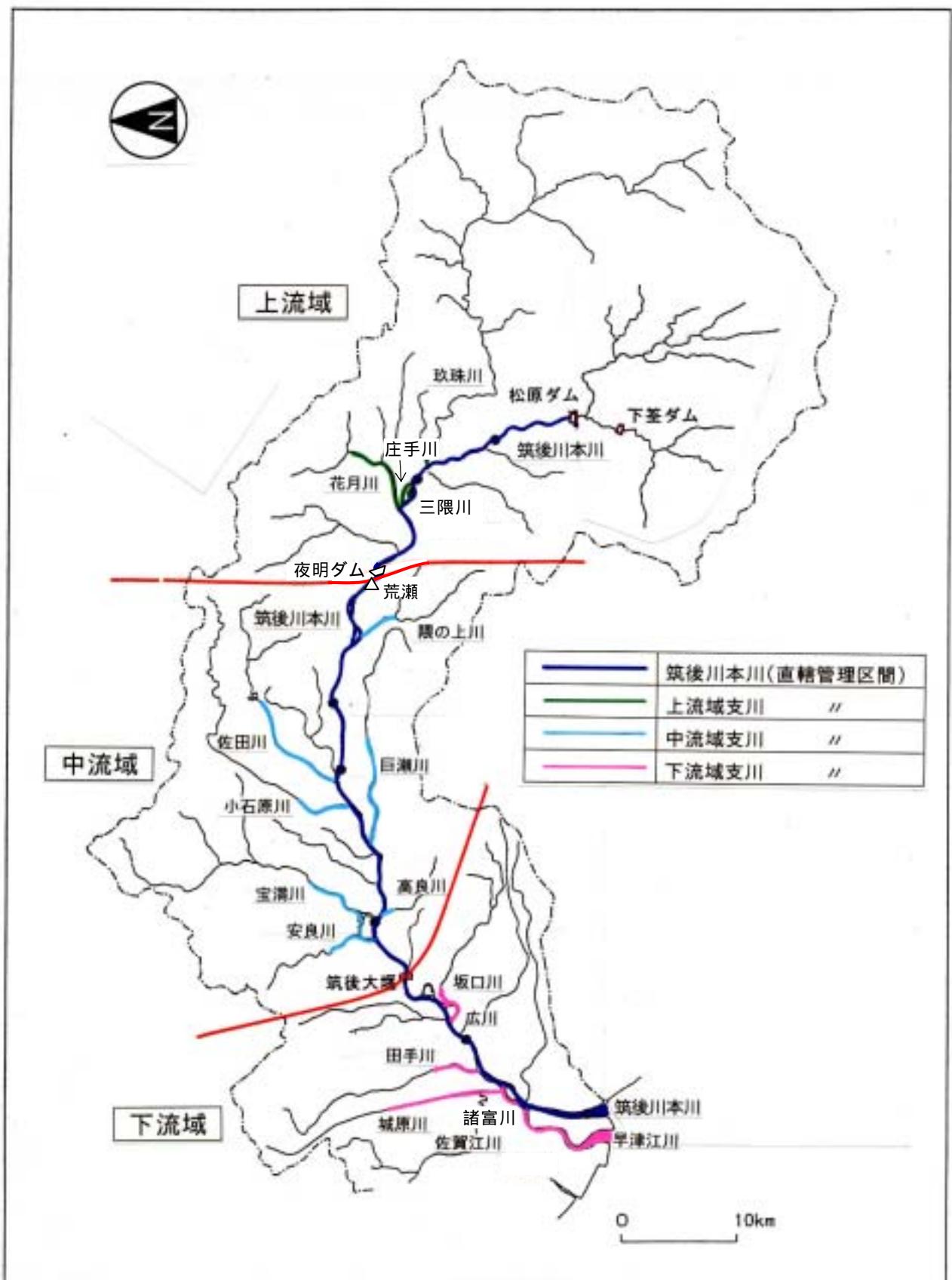


図2-1 流域区分図

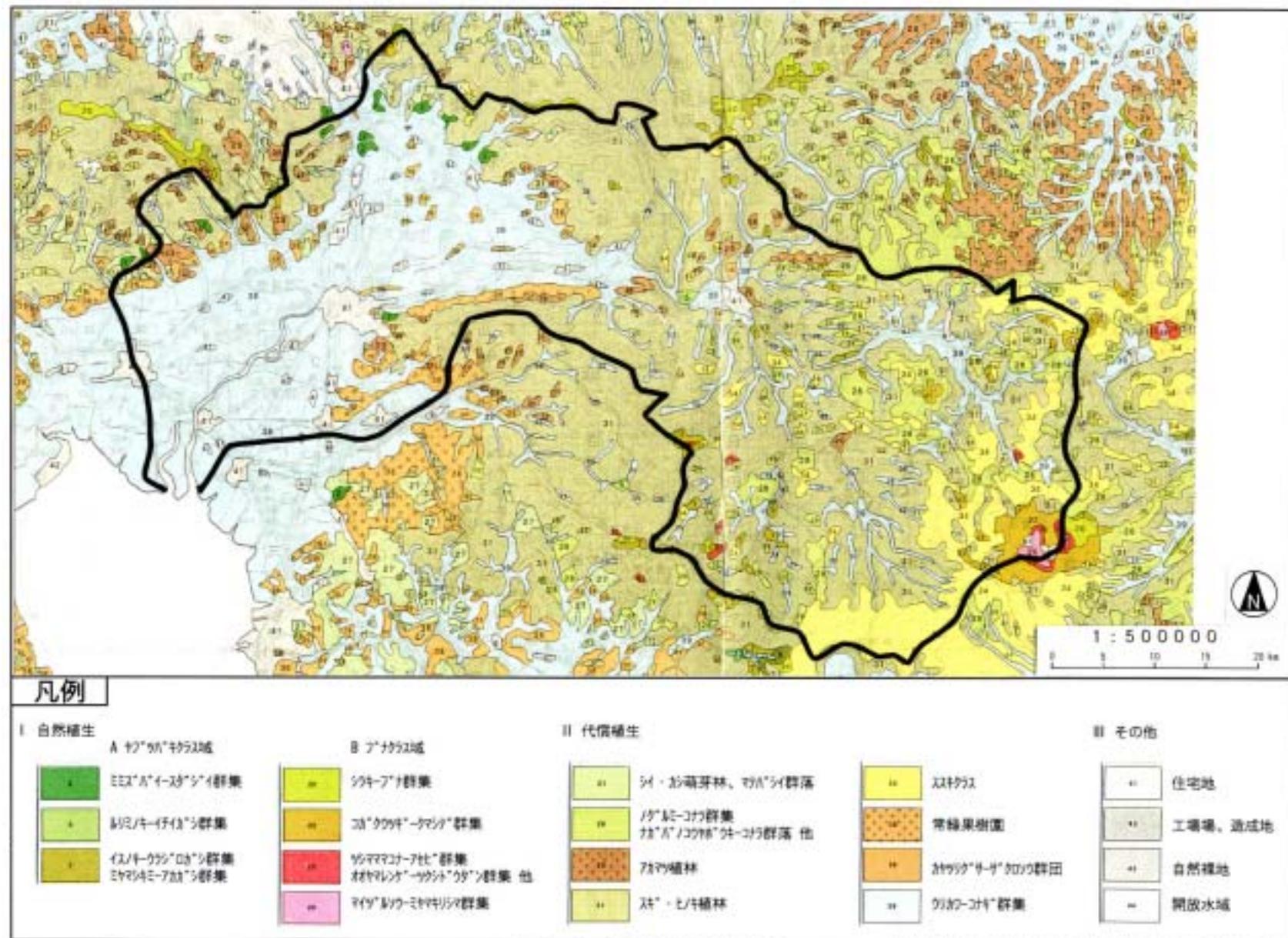


図 2 - 2 筑後川流域の植生図

## 2 - 2 河川の自然環境

### 1 ) 上流部

上流部では、河道内にはツルヨシ群落、河岸にはネコヤナギなどのヤナギ、アラカシなどの高木林が広く分布している。

河床は礫、玉石などからなり、山地の渓流を好むカジカガエル、水のきれいな砂礫地を好むサワガニ、清流を好むゲンジボタルが生息している。また、礫河床の流水域には、オイカワ、カワムツ、早瀬にはアユなどが生息している。

渓流にはカワガラス、水辺に近い土崖に巣穴を掘り小魚を餌とするヤマセミなどの鳥類、キツネ、テンなどの哺乳類が確認されている。



◀ 筑後川（松原ダム下流）

筑後川（夜明大橋付近）▶





### ツルヨシ【イネ科】

根茎は地上をはい、根茎から多数の中空の茎が伸び出して直立し、高さ 1.5~2.5m に達する。多年草である。河川の水辺、砂利や礫地によく生育する。筑後川水系では本川の中流域から上流域、城原川、宝満川、安良川など多くの支川に分布する。



### ネコヤナギ【ヤナギ科】

幹の高さは 0.5~3m、葉は長さ 7~13cm で裏面には灰白色の毛が多い。落葉低木である。日当たりのよい水辺や比較的乾いた河川敷に生育する。筑後川水系では中流域から上流域に分布する。



### アラカシ【ブナ科】

幹の高さは約 20m にも達する。葉は長さ 7~12cm で表面に光沢があり、裏面は毛が密生して灰白色に見える。常緑高木である。山地の山頂から谷部の河川敷にかけて広い範囲に生育する。筑後川水系では本川の上流域の川辺の斜面や河川敷に多く分布する。



### カジカガエル【カエル目アオガエル科】

灰色がかった褐色が基本で不規則な暗色の模様を持つ。川幅の広い渓流や湖沼とその周辺の河原、樹林に生息する。筑後川では上流域に生息する。



### サワガニ【甲殻綱エビ目サワガニ科】

甲幅 25mm 前後。上流域の清流や沢に生息する。雑食性で藻類、水草、水生昆虫、ミミズ、魚などを食べる。主に夜行性で、昼間は石や礫の間、落ち葉の下などに潜み、夜間に活発にえさを食べる。筑後川では上流の水のきれいな水域に多い。



### オイカワ【コイ目コイ科】

体は細長く、全長 15cm 位になる。比較的流れが緩やかで、砂底または砂礫底の開けた場所に多い。筑後川水系の淡水域のほぼ全域に生息しており、その数が多い。



### カワムツ【コイ目コイ科】

体は細長く、オイカワに似ているが、体側の幅広い青紫色の縦の筋により区別される。体長 15cm 位。河川の上～中流域にかけての淵や淀み、砂底や砂礫底の中・表層などに多い。筑後川水系の淡水域のほぼ全域に生息し、その数は多い。



### カワガラス【スズメ目カワガラス科】

スズメより大きい(約 22cm)。渓流の水底を歩いて水生昆虫などを採食する。川の上流部で岩や大きい礫の間をぬって清流が流れるような所を好む。中流部の氾濫原が発達した場所に出てくることもある。筑後川では上流域に生息する。



### ヤマセミ【ブッポウソウ目カワセミ科】

ハトぐらい(約 37.5cm)。肉食性。ウグイ、アマゴなどの魚を食べる。山間部の渓流につがいの単位でなわばりをもち、平野部にいることもある。筑後川では上流域に生息する。



### オシドリ【カモ目カモ科】

冬鳥。カラスより小(約 45cm)。雑食性。植物、水生昆虫、魚などを採食する。日中は上部を木が覆っているような水面に、夜間は水辺近くの雑木林などの木の枝に生息する。筑後川では中流域～上流域に生息する。



### キツネ【ネコ目イヌ科】

体色は背面から側面が黄土色、顔の下面から腹部は白色。尾が太く、先は白色である。頭胴長 52～76cm、尾長 26～42cm。海岸から高山まで広く分布するが、農耕地や森林、原野、集落地が混在する環境に生息する。筑後川では中流域～上流域に生息する。



### テン【ネコ目イタチ科】

頭胴長約 45cm、尾長 20cm。非常に神經質な動物で、日中は人前に姿を見せることがほとんどない。樹上空間を多く利用するため、森林が主な生息地であるが、樹木があれば人家周辺でも見られる。筑後川では上流域に生息する。

## 2 ) 中流部

中流部の河道には、瀬、淵、ワンド、河原等が分布し、多様な生息・生育環境を形成している。

水際にはエビモ、ヤナギモなどの沈水植物、ヤナギタデ、ミゾソバなどの湿性植物、低水敷にはツルヨシ群落、高水敷にはオギ群落が広く分布し、水際の植生も多様である。高水敷には九州北部では少ないセイタカヨシ群落も分布している。また、河岸にはオオタチヤナギ、エノキなどの高木林が点在している。

河床は砂や礫等からなり、早瀬で産卵するアユ、アリアケギバチ、緩流域を好むウグイ、ギンブナなどが生息し、抽水植物に産卵するオヤニラミ、抽水・沈水植物が繁茂する場所には、キイロカワカゲロウなどが生息している。

陸域では、河岸の土の崖に営巣するカワセミ、礫河原で繁殖するコアジサシ、ツバメチドリなどの鳥類、オギなど高水敷のイネ科植物に巣をつくるカヤネズミなどの哺乳類が確認されている。



◀ 筑後川（朝羽大橋付近）

筑後川（神代橋付近）▶





◀ 高木林

筑後川 45.0km 両筑橋下流



◀ ワンド

筑後川 48.0km 朝羽大橋下流



◀ 高水敷の植物

筑後川 49.5km 朝羽大橋下流



◀ 砂礫地

筑後川 50.0km 朝羽大橋上流



### ヤナギタデ【タデ科】

茎は高さ 30~60cm で無毛。葉は長さ 5~10cm で、噛むとひどく辛い。一年草。河川の水辺によく生育する。筑後川水系では本川の下流域から上流域までの水辺に多く分布し、城原川、巨瀬川、花月川など多くの支川にも分布する。



### オギ【イネ科】

根茎は地下で横に伸び、そこから茎が地上へ伸び出し、直立し、高さ 1~2.5m となる。多年草。河川の水辺や河川敷に生育する。筑後川水系では本川の下流域から上流域、及び多くの支川に分布する。群落を作っている場所が多い。



### エノキ【ニレ科】

幹の高さは約 20m にも達する。落葉高木。河川敷などによく生育する。山地にも生育し、道路脇や公園などでも見られることがある。筑後川水系では本川の主に中流域から上流域にかけての河川敷に分布し、支川でも早津江川、佐田川、花月川などで分布する。



### アユ【サケ目アユ科】

体は細長く、全長 30cm 位になる。春~秋にかけて、若魚期~成魚期を主として河川の中流域の瀬や淵がある場所で過ごす。回遊魚である。筑後川では上流の日田市付近から、中流の久留米市付近までの広い範囲に生息している。



### アリアケギバチ【ナマズ目ギギ科】

体は細長く、全長 20cm 位になる。水が比較的きれいで、隠れ場所となる石やヨシなどがあるような、自然の多く残されている場所に生息する。雑食性で、主に水生昆虫などを食べる。筑後川では主に上流域~中流域に生息している。



### オヤニラミ【スズキ目スズキ科】

体は太短い。全長は 30cm 位になる。水の比較的きれいな、やや流れのある水深 50cm 前後の岸近くで、ツルヨシなどの植物が生えている場所に生息する。肉食性で小型の水生昆虫などを主に食べる。筑後川では主に上流域~中流域に生息している。



**カワセミ【ブッポウソウ目カワセミ科】**

スズメより大(約 17cm)。肉食性。ウグイ、ドジョウ、ハゼなどの魚を食べる。平地の河川沿いにつがいの単位でなわばりをもち、河口部にいることもある。筑後川では、中流域～上流域に生息する。



**コアジサシ【チドリ目カモ科】**

夏鳥。ハトぐらいの大きさ(約 28cm、翼開長約 53cm)。河口部の干潟や中洲などに生息する。集団で繁殖し、コロニーに外敵が侵入すると多くの個体が鳴きながら上空を飛び、急降下して攻撃する。筑後川では下流域～中流域に生息する。



**ツバメチドリ【チドリ目ツバメチドリ科】**

夏鳥。ハトより大(約 26.5cm)。肉食性で、主に飛翔中のハエ、カなどを、飛びながらくちばしで捕らえる。河原、河川敷などの草の少ない開けた環境を好む。筑後川では中流域に生息する。



**カヤネズミ【ネズミ目ネズミ科】**

頭胴長 5～8cm。低地から山地まで広く分布し、草地・水田・畑・休耕田・池沼地などのイネ科植物が密に生育し、湿気のある所に多く生息する。スキ、オギ類などの草本の中程に、周囲の葉を集めて鳥の巣に似た球形の巣を作る。筑後川では下流域～中流域に生息する。

### 3 ) 下流部

河口より 23km 付近までが感潮区間となっており、河口部には干潟が広く分布している。

高水敷にはオギ群落、水際にはヨシ原が形成され、オオタチヤナギなどのヤナギ林が分布している。また、河口部の水際にはアイアシ、イセウキヤガラなどの塩生植物群落が分布している。

河床は粘土、シルトなどからなり、干潟にはシオマネキ、ハラグクレチゴガニなどの干潟生物が多く生息し、ハマシギ、シロチドリなどの餌場、休息場等としても利用されている。

感潮域には、日本では有明海にのみ生息し、産卵するエツ、アリアケシラウオ、有明海でタイラギに卵を産むヤマノカミなどの魚類が生息している。

高水敷には、生息地が国指定天然記念物となっているカササギ、ヨシ原を繁殖場とするオオヨシキリなどの鳥類が生息している。



◀ 筑後川（筑後大堰下流）

筑後川（河口より 1.5km 付近）▶





### ヨシ【イネ科】

地下を横に伸びていく根茎を持ち、根茎から多数の茎が地上に伸び出して直立し、高さ 1~3m に達する。多年草。河川の水辺や河川敷に生育する。海岸や湿地にも生育する。筑後川水系では本川下流域から中流域、早津江川、佐賀江川、城原川、広川などの支川に分布する。



### アイアシ【イネ科】

地下を横に伸びていく根茎を持ち、根茎から多数の茎が地上に伸び出して直立し、高さ 80~160cm に達する。多年草。河川の水辺や河川敷に生育する。海岸や湿地にも生育する。筑後川水系では本川下流域及び早津江川、諸富川、佐賀江川、田手川などの支川に分布する。



### シオマネキ【甲殻綱エビ目スナガニ科】

甲長約 20mm、甲幅約 30mm。有明海沿岸に多く生息する。内湾、河口のヨシ原やその周辺の泥地に生息する。泥中の有機物などを食べる。大潮でないと水が来ないようなところに好んで巣穴をつくる。筑後川では河口域の干潟に見られる。



### ハラグクレチゴガニ【甲殻綱エビ目スナガニ科】

甲長 10mm 弱の小型種。甲は長方形で、短毛がまばらに生える。有明海特産種であり、有明海湾奥部の沿岸や河口域の干潟上に生息している。泥中の微小な有機物を摂食する。筑後川では下流の干潟に生息する。



### エツ【ニシン目カタクチイワシ科】

体はうすっぺらで長く、尾部に近づくほど細くなる。有明海沿岸とこれに注ぐ河川の汽水域に生息する。沿岸性で、浮遊性の甲殻類(プランクトン)を主食とする。4年ぐらい生きる。筑後川では、感潮域に生息している。



### アリアケシラウオ【サケ目シラウオ科】

体は細長く、頭部が極端に平べったく、上あごと下あごが突出している。生息環境は、塩分があまり多くなく、にごりがあり、泥底質の場所。沿岸性の魚である。筑後川では、主に河口付近に生息している。



ヤマノカミ【カサゴ目カジカ科】

体はハゼ類のような形だが、カジカの仲間でエラに4本のトゲがある。有明海に注ぐ河川の上～中流域の砂礫底や礫底の場所に生息する。夜行性であり、昼間は石の下などに潜み、夜間にエビ・カニなどの甲殻類を食べる。回遊魚。筑後川では主に中流域に生息している。



シロチドリ【チドリ目チドリ科】

スズメより大(約 17.5cm)。砂礫の河原や干潟などに生息。河川の下流や河口部を好み、繁殖期にはややコロニー状に集まり、非繁殖期には群れで干潟などに多い。肉食性でゴカイ、貝、昆虫、カニなどの干潟の小動物を食べる。筑後川では下流域に生息している。



カラサギ【スズメ目カラス科】

カラスより小(約 45cm)。雑食性で草木の実や昆虫、クモ、カエルなどを食べる。河川敷の草地や雑木林などに生息する。繁殖期はつがいでなわばりをもつが、それ以外は小群でいることが多い。筑後川では下流域～中流域に生息。



オオヨシキリ【スズメ目ヒタキ科】

夏鳥。スズメより大(約 18.5cm)。肉食性で特に昆虫、クモを好む。河川敷などの丈の高い草原に多く、ヨシ原を好む。ヨシの先端や杭の上などでなわばり宣言のさえずりをする。筑後川では下流域～中流域に生息する。

## 4 ) 筑後川の生物

## 生物相の概要

河川水辺の国勢調査結果をもとに、各生物相の概要整理し、表2-1に示す。

表2-1

各生物相の概要

調査項目	生物相の概要
植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査の結果、平成4~5年の調査では558種、平成7~8年の調査では574種の植物が確認された。</li> <li>上流域では、ツルヨシ、ヤナギタデ、ネコヤナギ、オオタチヤナギ等が多く生育している。</li> <li>中流域では、水際にツルヨシ、ヤナギ類、高水敷にセイヨウアラナ、セイタカアワダチソウ、オギ等が広く分布している。</li> <li>下流域では、水際付近にヨシ、マコモ等の抽水植物群落が広く分布している。また河口部にはシオクグ等塩生植物群落が分布している。</li> </ul>
魚類	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査の結果、平成4~5年の調査では51種、平成6~7年の調査では59種、平成13年の調査では79種の魚類が確認された。</li> <li>中上流域では、オイカワ、カワムツ(B型)、ムギツク、カマツカ等が多く生息し、広く分布している。</li> <li>下流の感潮域では、エツ、アリアケヒメシラウオ等の汽水・海水魚が多く生息している。</li> </ul>
底生動物	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査の結果、平成4~5年の調査では136種、平成9~10年の調査では190種の底生動物が確認された。</li> <li>中上流域では、コガタシマトビケラ、ウルマーシマトビケラが多く生息し、上流では清流に生息するサワガニ、ゲンジボタルが確認されている。</li> <li>下流域では、干潟に生息するゴカイやハラグクレチゴガニ等のカニ類が多く生息している。</li> </ul>
鳥類	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査の結果、平成7~8年の調査では130種、平成12年の調査では103種の鳥類が確認された。</li> <li>上流域にはヤマセミ、カワセミ、カワガラス等の山地・渓流性の種が多く生息している。</li> <li>中流域には砂礫河原を好むチドリ類やサギ類等の水鳥が多く生息している。</li> <li>下流域には干潟を好むシギ・チドリ類やカモ類・カモメ類等の水鳥が多く生息している。</li> </ul>
両生類 爬虫類 哺乳類	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査の結果、平成5~6年の調査では両生類7種、爬虫類5種、哺乳類12種、平成10年の調査では両生類7種、爬虫類7種、哺乳類12種が確認された。</li> <li>流域全体に、両生類ではヌマガエル、ツチガエル、爬虫類ではカナヘビ、哺乳類ではコウベモグラ、ハツカネズミ、イタチ類等が多く生息している。</li> <li>上流域にはカジカガエルが生息し、キツネ、テン、イノシシ等の森林性の哺乳類も確認されている。</li> </ul>
陸上昆虫類	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査の結果、平成6~7年の調査では1012種、平成13年の調査では1178種の陸上昆虫類が確認された。</li> <li>上流域には、コウチュウ類やチョウ類が多く、樹林地に生息するヒラタクワガタ、ワモンサビカミキリやサカハチチョウ等や、河川の上流域に多いニシカワトンボやヘビトンボ等の昆虫類が生息している。</li> <li>中流から下流域にかけてはクズ、ヨモギ等の草地に生息する、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ等のバッタ類、ホソハリカメムシ、マダラヨコバイ等のカメムシ類、ナナホシテントウ、ウスバキトンボ等が多く生息している。</li> </ul>

## 特定種

学術上の重要性及び希少性の観点から、表2-2に示す選定基準に該当する種を特定種として選定した。表2-3に筑後川の特定種を示す。

表2-2

特 定 種 選 定 基 準

区分	所管 発行者	年度	内 容	選定対象 < >内略号
絶滅のおそれのある 野生動植物の種の保存 に関する法律	環境庁	1993	絶滅のおそれのある野生動植物種 を指定し、保護、譲渡、輸出入等を規 制	国内希少野生動植物種<絶滅> (対象:植物、魚類、鳥類、両生類、 爬虫類、哺乳類、昆虫類)
文化財保護法 文化財保護条例	文化庁 都道府県 市町村	1950	学術上価値の高い動植物、地質鉱物 のうち重要なものを天然記念物に指 定	国指定天然記念物<国天> 県指定天然記念物<県天> (国指定、都道府県指定、市町村指定)
自然公園法	環境庁	1964	国立/国定公園の風致の重要な構成 要素になっている高山植物その他こ れに類する植物を指定	国立/国定公園特別地域内指定植 物 <公園>
環境庁 レッドリスト	哺乳類 鳥類 魚類 無脊椎動物	1998 1998 1999 2000	絶滅のおそれのある動植物を、 IUCN(国際自然保護連合)が1994に 採択した新カテゴリーにより選定。	絶滅危惧 A類<CR> 絶滅危惧 B類<EN> 絶滅危惧 類<VU> 準絶滅危惧種<NT>、情報不足<DD>
改訂版 レッドデータ ブック	爬虫類 ・両生類 植物 ( , )	2000 2000 2001	1997 環境庁レッドリストを基に作成	環境庁レッドリストと同じ
第2回自然環境保全基礎 調査 (特定植物群落調査、 動物分布調査、河川調査)	環境庁	1978	学術上重要な群落、保護を必要とす る植物群落を選定 学術上重要な種、分布域が限定され ている種の分布を調査	特定植物群落<重要> (選定対象:植物)
自然環境保全基礎調査 (すぐれた自然調査)	環境庁	1973	植物、野生動物等について稀少性、 固有性、特異性という視点で分布を 調査	すぐれた自然調査対象種<自然> (選定対象:植物)
福岡県の希少野生生物 -福岡県レッドデータ ブック 2001-	福岡県	2001	県内の絶滅のおそれのある野生生 物をカテゴリー別に選定	絶滅種<絶> 絶滅危惧<危>、絶滅危惧 類< > 絶滅危惧 A類< A> 絶滅危惧 B類< B> 絶滅危惧 類<危 > 準絶滅危惧種<準>、天然不明<天不> 情報不足<不足>、地域個体群<地域> 保全対策依存種<保全>
レッドデータブックおおいた ~大分県の絶滅のおそれ のある野生生物~	大分県	2001		絶滅危惧 A類< A> 絶滅危惧 B類< B> 絶滅危惧 類<危 > 準絶滅危惧種<準>、情報不足<不足> 地域個体群<地域>
レッドデータブックさが	佐賀県	2001		絶滅危惧 類< > 絶滅危惧 A類< A> 絶滅危惧 B類< B> 絶滅危惧 類<危 > 準絶滅危惧種<準>、情報不足<不足> 地域個体群<地域>

表2-3(1)  
特 定 種 一 覧  
植物

種名等	種の保存法	文化財保護法	環境庁RDB(2000,2001)	福岡RDB	大分RDB	佐賀RDB	環境庁自然環境保全基礎調査
イセウキヤガラ				危			重要
イソヤマテンツキ							重要
ウラギク			VU	危	危		重要
ウンゼンカンアオイ			VU				
エビネ			VU	危	B		
オオバノハチジョウシダ							重要、自然
オニコナスピ			EN	B	不足		自然
カワチシャ			NT	準	準		
キエビネ			EN	A	A		
キンラン			VU	危	危		
コイヌガラシ			NT	危	危		
コギシギシ			VU	危	危		
シイモチ							自然
シオクグ							重要
シチメンソウ			VU	絶	不足		重要
シロヤマシタ							重要、自然
タコノアシ			VU	危	B		
チスジノリ							
テリハアザミ							自然
ナガエミクリ			NT	B	危		
ナガミノツルキケマン			NT	B	準		
ナツエビネ			VU		B		
ヒロハマツナ			VU	A	A		
ヒメビシ			VU	·	·		
フクド				危	準		重要
ホソバナコバイモ			VU	危	B		
ホソバニガナ			EN	B	B		
ミクリ			NT	A	危		
ミゾコウジュ			NT		準		
ヤマドリゼンマイ							自然

鳥類

種名等	種の保存法	文化財保護法	環境庁RL(1998)	福岡RDB	大分RDB	佐賀RDB
アカアシシギ			VU	準	危	
イカルチドリ				危		
オオタカ	絶滅		VU	準	危	
オオヨシキリ				準		
オオルリ				準		
オシドリ				準	危	
カササギ		国天		保全		
カワウ					地域	
カンムリカツブリ				危		
クマタカ	絶滅		EN	A	B	
コアジサシ			VU	危	B	
コシャクシギ			CR		不足	
コミニズク					危	
サシバ				準	準	
サンショウクイ			VU	危	危	
シロチドリ					準	
スグロカモメ			VU	B	B	
セイタカシギ			EN		B	
ダイシャクシギ				危		
タカブシギ				危		
チュウサギ			NT	準	準	
チュウヒ			VU	B	B	
ツクシガモ			EN	危	B	
ツバメチドリ			VU	危	危	
トモエガモ			VU	危	危	
ハイタカ			NT	準	準	
ハチクマ			NT	準	準	
ハヤフサ			VU	危	危	
ヒクイナ				準	準	
フクロウ					危	
フッポウソウ			VU	B	危	
ヘラサギ			DD	準	B	
ホウロクシギ			VU	危	危	
ミサゴ			NT	準	準	
ミゾゴイ			NT	危	準	

表2-3(2)  
特 定 種 一 覧  
魚類

種名等	種の 保存法	文化財 保護法	環境庁 RL (1998)	福岡 RDB	大分 RDB	佐賀 RDB
アカウオ						
アカザ			VU	B	危	
アユ				天不		
アリアケギバチ			NT	準	危	危
アリアケシラウオ			CR	A		
アリアケヒメシラウオ			CR	A		
ウナギ				準		
エツ			VU	危		準
オヤニラミ			NT	準	準	危
カジカ				*1	B	
カゼトゲタナゴ			VU	危	危	危
カネヒラ				準		
カマキリ						
カワアナゴ				準	準	
カワバタモロコ			EN	A		
カワムツ A型					準	
ギギ				準		
クルメサヨリ				A		危
コウライアカシタビラメ						準
シモフリシマハゼ					不足	
ショウキハゼ						危
シロウオ			NT	準	準	準
シロチチブ				準		準
スジシマドジョウ (小型種点小型)			EN	危		
スズキ						準
スナヤツメ			VU	B	B	準
セボシタビラ			VU	A	不足	
タビラクチ			EN	危		
チワラスボ						
ドジョウ				危		地域
トビハゼ				B	準	危
ニッポンバラタナゴ			CR	危	不足	
ハゼクチ				準		準
ヒナモロコ			CR	A		
ムツゴロウ			VU	危		危
メダカ			VU	準		準
ヤマトシマドジョウ					準	
ヤマノカミ			VU	準		危
ヤマメ				天不		
ヤリタナゴ				準	準	
ワラスボ						準

\*1 : カジカ(回遊型)は野生絶滅、カジカ(陸封型)は絶滅危惧 類

両生類、爬虫類、哺乳類

種名等	種の 保存法	文化財 保護法	環境庁 RDB (両爬 2000) RL (哺 1998)	福岡 RDB	大分 RDB	佐賀 RDB
オオサンショウウオ			NT	A	A	
カヤネズミ				危	準	
クサガメ					地域	
スッポン			DD		不足	
タカチホヘビ				危	危	
トノサマガエル				B	危	
ニホンテングコウモリ			VU			
ニホンヒキガエル				危	準	
ハタネズミ				準	準	
ヤマアカガエル				危		

表2-3(3) 特定種一覧

## 底生動物

種名等	種の保存法	文化財保護法	環境庁RL(2000)	福岡RDB	大分RDB	佐賀RDB
アズキカラザンショウガイ				危		
アリアケガニ				危		
アリアケモドキ				危	準	
オオタニシ				危		
オカミミガイ				危	B	
カラザンショウガイ属				*2		
キイロヤマトンボ			VU			
キベリマメゲンゴロウ						
クシテガニ						
クシテガニ (オオユビアカベンケイガニ)				準		
クロヘナタリガイ						
シオマネキ			NT	危	危	
シバエビ						
タガメ						
トゲナベフタムシ			VU			
トンガリササノハガイ			NT	危		
ナガオカモノアラガイ			NT			
ハクセンシオマネキ			NT	準	準	
ハラグクレチコガニ			DD	地域		
ヒメアシハラガニ				準		
ヒメケフサイソガニ						
ヒメモクスガニ						
ヒラマキミズマイマイ						
ヒロクチカノコガイ				危	B	
ペイカ						
ヘイケガニ				危		
ベンケイガニ				危		
マルタニシ			NT	準		
ムツハアリアケガニ				準		
メナシビンノ				準		
モノアラガイ			NT			
ヨコミゾドロムシ			CR+EN			

\*2 : 同属のカラザンショウガイが準絶滅危惧

## 陸上昆虫類

種名等	種の保存法	文化財保護法	環境庁レッドリスト(2000)	福岡RDB	大分RDB	佐賀RDB
アオサナエ				準		
アオヘリホソゴミムシ				準		
オオセイボウ				準		
カマスクグモ				準		
キベリマメゲンゴロウ				危		
クロバネツリアブ				準		
グンバイトンボ			VU			
コガネグモ				準		
コムラサキ						
ジュウサンホシテントウ				危		
ツマグロキショウ			VU		準	
ナゴヤサナエ						
ハイイロボクトウ						
ヒロウドサシガメ					不足	
フクロクヨコバイ			NT			
フノジグモ					準	
ベニイトンボ			VU			
ワスレナグモ			NT			

## 2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

### 1 ) 観光・景勝地

筑後川流域は、熊本県・大分県・福岡県・佐賀県の4県にまたがり、豊かな自然環境を有し、筑後川と周囲の山々が調和して清涼な自然景観を楽しめ、情緒豊かな河川景観は観光資源としても活かされている。流域の一部は、阿蘇くじゅう国立公園、耶馬日田英彦山国定公園などの自然公園にも指定され、杖立・黒川・天ヶ瀬温泉をはじめ多くの温泉が点在している。中流部は肥沃な筑紫平野を有し、川畔には筑後川・原鶴温泉などがあり、鵜飼が行われる。下流部では国内最大の干満差を有する有明海に注ぎ、その干潟にはムツゴロウなど特徴的な生物が生息している。

表2 - 4 ( 1 )

筑後川流域の観光資源

番号	名称	市町村	県	番号	名称	市町村	県	
1	雀地獄自然公園	南小国町	熊本県	40	屋形船とう飼	日田市	大分県	
2	黒川温泉			41	観光アユやな			
3	奥の院			42	豆田の水路			
4	奥の院滝			43	威宣園			
5	夫婦滝			44	ゴルフ場			
6	七滝			45	筑後川温泉(花火大会)	浮羽町		
7	押戸石			46	う飼			
8	マゼノ渓谷			47	くど造民家			
9	山川温泉			48	清水湧水(名水百選)			
10	下城滝	小国町	熊本県	49	調音の滝公園・魚返りの滝・斧渕の滝			
11	杖立温泉			50	九州自然歩道	小石原村		
12	小松地獄	九重町	大分県	51	神籠石	杷木町	福岡県	
13	九重(泉水)グリーンパーク			52	原鶴温泉(花火大会)・う飼			
14	飯田高原			53	高山公園	吉井町		
15	九酔渓			54	龍門神社			
16	竜門の滝			55	清光寺			
17	川底温泉			56	竹茂の庄屋敷			
18	宝泉寺温泉			57	恵蘇八幡宮	朝倉町		
19	オートポリス	上津江村	大分県	58	三連水車			
20	上津江フィッシングパーク			59	南淋時			
21	上山シャクナゲ園			60	朝倉総合運動公園			
22	御所の滝	中津江村	大分県	61	鳥屋キャンプ場	甘木市	福岡県	
23	鯛生金山			62	美奈宣神社			
24	鯛生家族旅行村			63	古処山			
25	宮園鎮座津江神社			64	秋月キャンプ場			
26	伝来寺庭園			65	秋月城趾			
27	津江温泉			66	甘木公園			
28	シオジ原生林	前津江村	大分県	67	夜須高原	夜須町	福岡県	
29	御前岳湧水			68	国立少年の家			
30	権現滝			69	大巳貴神社	三輪町		
31	椿ヶ鼻ハイランドパーク			70	草場川の菜の花	筑紫野市		
32	大岩扇山	玖珠町	大分県	71	床島堰			
33	玖珠川温泉			72	大堰神社			
34	九留島庭園(三島公園)			73	天拝公園(ショウブ園)			
35	慈恩の滝			74	武蔵寺			
36	天ヶ瀬カントリークラブ	天ヶ瀬村	大分県	75	城島公園	小郡市	福岡県	
37	梅林公園			76	小郡カントリークラブ			
38	中津尾台梅林公園			77	花火大会			
39	大久保台梅林公園	大山町	大分県					

表2-4(2)

## 筑後川流域の観光資源

番号	名 称	市町村	県	番号	名 称	市町村	県		
78	サイクリングロード	北野町	福岡県	100	九州自然遊歩道	基山町	佐賀県		
79	菜の花畠(筑後川河川敷)			101	基山の草スキー				
80	赤司八幡宮奉納花火大会			102	蛤岳	東背振村			
81	北野天満宮			103	田代公園				
82	森林浴100選の散策コース	広川町		104	巨大迷路	鳥栖市			
83	広川ゴルフ場(久留米カントリークラブ)			105	御手洗の滝				
84	高良大社	久留米市	岡	106	四阿屋神社				
85	王子若宮八幡宮・王子キャンプ場			107	白石神社	北茂安町	神崎町		
86	久留米百年公園			108	佐賀カントリー倶楽部				
87	リバーサイドパーク			109	丸三ローンテニス倶楽部				
88	筑後川カヌーコース			110	筑後川リバーサイドパーク				
89	石橋文化センター			111	河川敷グランド				
90	水天宮			112	鎮山いこいの森	上峰町			
91	窓ヶ原公園	筑後市		113	九年庵・仁比山公園				
92	琴平神社			114	吉野ヶ里遺跡	諸富町			
93	城島リバーサイドゴルフ場	城島町	県	115	日の隈公園				
94	酒蔵の町並み			116	こどもフェスタ&サイクリングロード				
95	昇開橋			117	佐賀藩三重津海軍所跡	川副町			
96	筑後川総合運動公園(大川トリムランド)			118	運動公園				
97	大川公園			119	山口家住宅				
98	水天宮	大川市							
99	古賀政男記念館								

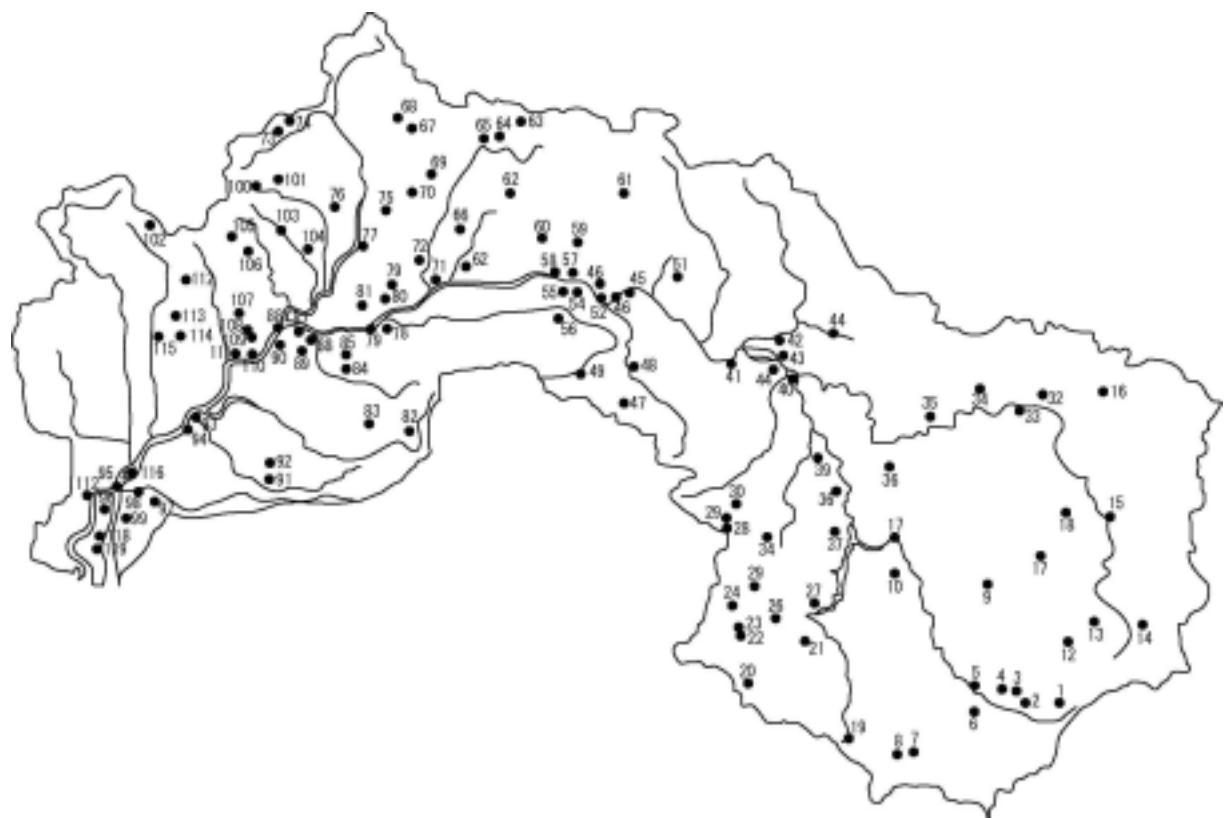


図2-3 観光資源位置図



くじゅう連山とミヤマキリシマ



竜門の滝



黒川温泉



杖立温泉こいのぼり祭り



天ヶ瀬温泉



原鶴温泉街



鵜飼



朝倉三連水車



大堰神社



水天宮



昇開橋



吉野ヶ里歴史公園

表2-5(1)

筑後川に関わる人文的地物及び歴史的記念物

歴史的資源		内 容	歴史性 〔製造年代 ・ 伝承年代〕	法指定状況 〔文化財保護法 ・ 条例〕	保存状況
人 文 的 的 地 物	1. デレーケ導流堤	蘭人デレーケによる治水施設	明治時代	指定なし	
	2. アオの取水門	有明海の干満の差を利用した農業用水の取水施設	藩政時代	指定なし	施設だけ残る
	3. 荒籠・水刎	藩政時代名残りの治水施設	藩政時代	指定なし	
	4. 筑後大堰	筑後川を代表する多目的利水施設	昭和 59 年	指定なし	
	5. 千栗堤防	鍋島藩の成富兵庫が築堤した延長約 12km の堤防	寛永年間	指定なし	一部残る
	6. 安武堤防	有島藩が築堤した延長約 4km の堤防	寛永年間	指定なし	一部残る
	7. 筑後三大堰	寛文～正徳年間に建設された筑後川の代表的な利水施設。（山田堰・大石堰・恵利堰）	寛文～正徳年間	指定なし	機能だけ残る
	8. 袋野堰	吉井町の大庄屋他代弥三左衛門の独力による利水施設	寛文 13 年	浮羽町指定の史鉢	夜明ダムに水没
	9. 捷水路群	高水流量を安全に流下させることを目的とした河道のショートカット（小森野・金島・坂口）	昭和時代	指定なし	
	10. 分水路群	高水流量を安会に流下させることを目的とした人工水路（千年・原鶴・大石等）	昭和時代	指定なし	
	11. 夜明ダム	ダム調整池式発電所	昭和 29 年	指定なし	
	12. 松原・下筌ダム	洪水調節及び多目的ダムとして建設	昭和 44, 45 年	指定なし	
その 他	13. 旧 JR 佐賀線鉄道橋	筑後川下流にかかる全国でも珍しい昇降式鉄道橋	昭和 10 年	指定なし	廃線
	14. 篠山城跡	筑後川の水を利用し濠を設けた多間造りの城跡	天文年間 ( 1532 ~ 54 )	指定なし	一部現存
	15. 日隈城跡 ( 亀山公園 )	湖水時代の水触残丘。豊臣秀吉の家臣、宮本長次郎が築城	1594 年	指定なし	一部現存
	16. 水天宮 ( 久留米市 )	全国に散在する水天宮の総本宮（水の神様）	建久年間 ( 1190 ~ 99 )	指定なし	
	17. 高良大社 ( 久留米市 )	筑後一の宮で玉垂神を祭る。海の神様である。	履中天皇時代 ( 304 ~ 409 )	国指定の 重要文化財	
	18. 風浪神社	船舶を風浪の難から守護する神（少童命 = わだつみのかみ）を祭る。毎年 1 月 29 日～31 日にはお祭りが行われ、水天宮、高良大社と並ぶ筑後三大祭の一つである。	不 明	国指定の 重要文化財	
	19. 田栄社 ( 福岡県浮羽郡袋野 )	筑後四大堰の一つ。袋野水道（堰）を開通した大庄屋田代重栄を祭った社である。	寛文年間	指定なし	
	20. 大石水神社 ( 福岡県浮羽町 )	筑後四大堰の一つ、大石堰の完成への感謝と、施設の鎮護を祈って祭った社である。毎年 9 月 15 日にお祭りが行われる。	不 明	指定なし	明治 28 年 再建
	21. 長野水神社 ( 福岡県吉井町桜井 )	長野堰の横に建設され、水波売紳と五庄屋を祭ってある。毎年 4 月 8 日にお祭りが行われ、境内の桜の名所として有名。	明治 15 年	指定なし	

注) 保存状態の印は、伝承されていることを示す。

表 2 - 5 (2)

## 筑後川に關わる人文的地物及び歴史的記念物

歴史的資源		内容	歴史性 〔製造年代 ・ 伝承年代〕	法指定状況 〔文化財保護法 ・ 条例〕	保存状況
人文的 地 物	大堰神社 22. (福岡県大刀洗町 富多)	床島堰の水道功労者が祭ってある。毎年 4月9日と11月29日にお祭りが行われ る。	大正時代	指定なし	
	山田堰水神社 23. (福岡県朝倉町 恵蘇宿)	享保7年の切貫水門工事の安全と、水難 除去を願った岡象女命を祭ってある。	享保7年	指定なし	
歴史的 記念物	灌水記念碑 24. (久留米市長門石町)	明治以後、動力ポンプによって水を揚水 し、かんがいに利用する先駆けとなっ たことを記念して設けられた。	明治時代	指定なし	
	筑後川改修工事 記念碑 25. (久留米市東櫛原町 地先)	明治維新後初めて体系的に国家の手によ って遂行された。筑後川治水工事の概要 を伝える碑。	明治36年	指定なし	
	靈木記念碑 26. (日田市)	明治22年、大正10年の2度にわたって 合計93名の生命を助けた大椋の木の記 念碑。	大正11年	指定なし	
	梵字岩 27. (日田市)	石面を約1km程度の円形に削平し、これ に金剛界大日を現す「パン」という1字 の梵字を彫り込んだ岩。	享保2年	指定なし	

注) 保存状態の印は、伝承されていることを示す。

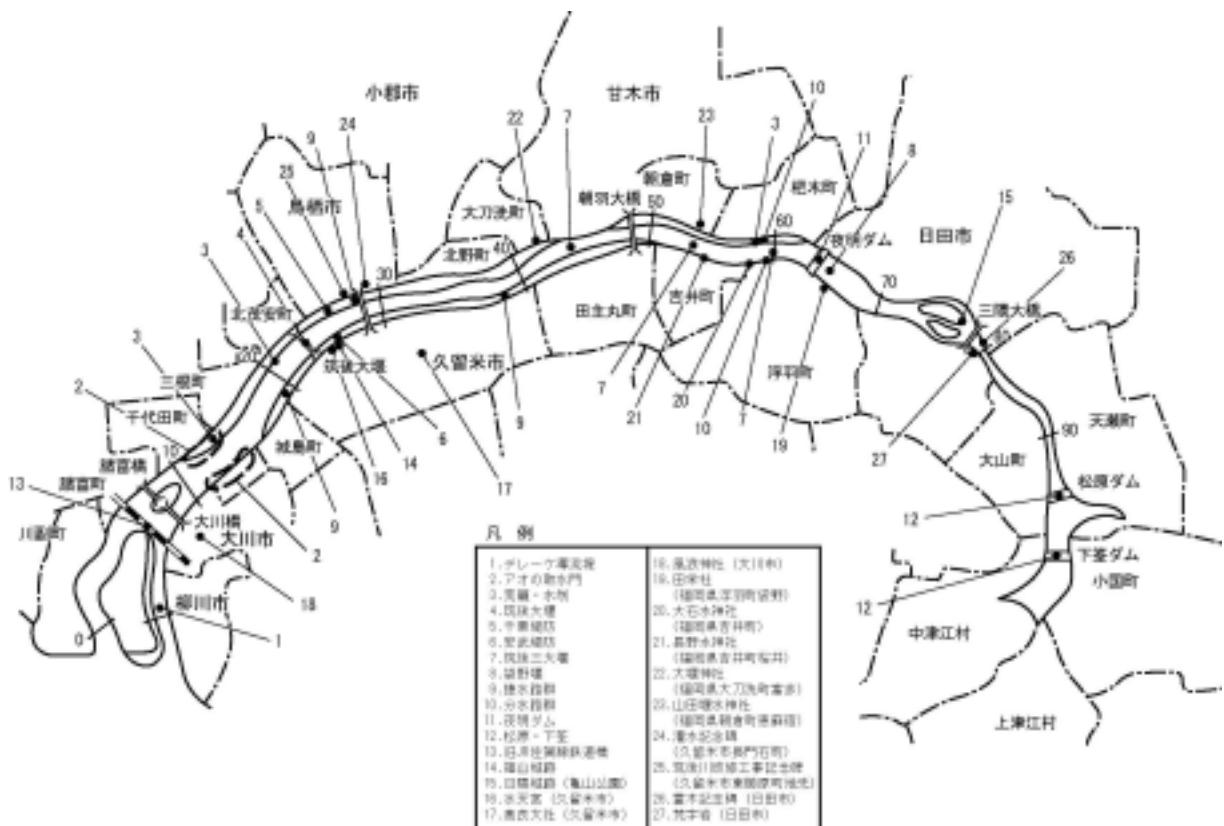


図 2 - 4 筑後川に関わる人文的地物及び歴史的記念物



デレーケ導流堤



荒 篠



水はね



千栗堤防



安武堤防



夜明ダム

## 2 ) 文化財

筑後川流域には歴史的に重要な文化財、史跡が多く国指定で 110 件、県指定では熊本、大分、福岡、佐賀の 4 県合わせて 250 件以上の文化財がある。表 2 - 6 に国指定の文化財を示す。

表 2 - 6 ( 1 ) 国指定の文化財 ( 史跡・名勝・天然記念物 )

番号	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	特 別 史 跡	基肄(様)城跡	佐賀県 基山町	昭 29.3.20
2	特 別 史 跡	吉野ヶ里遺跡	佐賀県 神埼町・三田川町 東脊振村	平 3.5.28
3	史 跡	咸宜園跡	大分県 日田市	昭 7.7.23
4	史 跡	穴觀音古墳	大分県 日田市	昭 8.2.28
5	史 跡	広瀬淡窓墓	大分県 日田市	昭 23.1.14
6	史 跡	法恩寺山古墳群	大分県 日田市	昭 34.5.13
7	史 跡	ガランドヤ古墳	大分県 日田市	平 5.3.13
8	史 跡	小迫辻原遺跡	大分県 日田市	平 8.10.31
9	史 跡	岡藩主中川家墓所	大分県 久住町	平 9.9.3
10	史 跡	小田茶臼塚古墳	福岡県 甘木市	昭 54.9.4
11	史 跡	平塚川添遺跡	福岡県 甘木市	平 6.5.19
12	史 跡	小郡官衙遺跡群 (小郡官衙遺跡 上岩田遺跡)	福岡県 小郡市	昭 46.12.23
13	史 跡	日輪寺古墳	福岡県 久留米市	大 11.3.8
14	史 跡	御塚・権現塚古墳	福岡県 久留米市	昭 6.10.21
15	史 跡	高山彦九郎墓	福岡県 久留米市	昭 17.7.21
16	史 跡	下馬場古墳	福岡県 久留米市	昭 19.11.7
17	史 跡	浦山古墳	福岡県 久留米市	昭 26.6.9
18	史 跡	高良山神籠石	福岡県 久留米市	昭 28.11.14
19	史 跡	安国寺甕棺墓群	福岡県 久留米市	昭 55.11.26
20	史 跡	筑後国府跡	福岡県 久留米市	平 8.3.26
21	史 跡	堀川用水及び朝倉揚水車	福岡県 朝倉町	平 2.7.4
22	史 跡	楠名 / 重定古墳	福岡県 浮羽町	大 11.3.8
23	史 跡	塚花塚古墳	福岡県 浮羽町	大 11.10.12
24	史 跡	下高橋官衙遺跡	福岡県 大刀洗町	平 10.1.16
25	史 跡	寺徳古墳	福岡県 田主丸町	昭 43.6.11
26	史 跡	田主丸古墳群	福岡県 田主丸町	平 14.3.19
27	史 跡	杷木神籠石	福岡県 杷木町	昭 47.12.9
28	史 跡	日岡古墳	福岡県 吉井町	昭 3.2.7
29	史 跡	屋形古墳群 (珍敷塚古墳 鳥船塚古墳 古畠古墳 原古墳)	福岡県 吉井町	昭 28.3.31
30	史 跡	帶隈山神籠石	佐賀県 佐賀市	昭 26.6.9
31	史 跡	大隈重信旧宅	佐賀県 佐賀市	昭 40.6.4
32	史 跡	西隈古墳	佐賀県 佐賀市	昭 48.6.2
33	史 跡	銚子塚古墳	佐賀県 佐賀市	昭 53.3.11
34	史 跡	田代太田古墳	佐賀県 鳥栖市	大 15.11.4
35	史 跡	安永田遺跡	佐賀県 鳥栖市	昭 57.12.18
36	史 跡	肥前国庁跡	佐賀県 大和町	平元.9.22

表2-6(2) 国指定の文化財(史跡・名勝・天然記念物)

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
37	名勝	耶馬渓	大分県 九重町・玖珠町	大12.3.7
38	名勝	九年庵(旧伊丹氏別邸)庭園	佐賀県 神埼町	平7.2.21
39	特別天然記念物	古処山ツゲ原始林	福岡県 甘木市	昭2.4.8
40	天然記念物	手野のスギ	熊本県 一の宮町	大13.12.9
41	天然記念物	阿弥陀スギ	熊本県 小国町	昭9.12.28
42	天然記念物	下の城のイチョウ	熊本県 小国町	昭9.12.28
43	天然記念物	竹の熊の大ケヤキ	熊本県 南小国町	昭10.6.7
44	天然記念物	志津川のオキチモズク発生地	熊本県 南小国町	昭34.7.1
45	天然記念物	金毘羅スギ	熊本県 南小国町	昭34.7.24
46	天然記念物	大船山のミヤマキリシマ群落	大分県 久住町	昭36.9.21
47	天然記念物	大岩扇山	大分県 玖珠町	昭10.6.7
48	天然記念物	耶馬渓猿飛の甌穴群	大分県 山国町	昭10.6.7
49	天然記念物	鷹巣山	大分県 山国町	昭16.8.1
50	天然記念物	大杵社の大スギ	大分県 湯布院町	昭9.8.9
51	天然記念物	九重山のコケモモ群落	大分県 九重町・久住町	昭37.1.26
52	天然記念物	イヌワシ	大分県 庄内町・湯布院町 九重町・久住町	昭40.5.12
53	天然記念物	高良山のモウソウキンメイチク林	福岡県 久留米市	昭49.11.25
54	天然記念物	水縄断層	福岡県 久留米市	平9.7.28
55	天然記念物	穏家森	福岡県 朝倉町	昭9.12.28
56	天然記念物	久喜宮のキンメイチク	福岡県 柏木町	昭2.4.8
57	天然記念物	エヒメアヤメ自生南限地帯	佐賀県 佐賀市	大14.10.8
58	天然記念物	千石山サザンカ自生北限地帯	佐賀県 東脊振村	昭32.7.2
59	天然記念物	カササギ生息地	福岡県 久留米市・柳川市 大川市・筑後市 三潴町・城島町 大木町 佐賀県 佐賀市・鳥栖市 佐賀郡・三養基郡 神埼郡	大12.3.7

表2-6(3) 国指定の文化財(史跡・名勝・天然記念物以外)

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
1	重要文化財(建)	行徳家住宅	大分県 日田市	昭50.6.23
2	重要文化財(建)	旧矢羽田家住宅	大分県 大山町	昭57.6.11
3	重要文化財(建)	神尾家住宅	大分県 山国町	昭50.6.23
4	重要文化財(建)	旧日野医院	大分県 湯布院町	平11.12.1
5	重要文化財(建)	大野老松天満社旧本殿	大分県 前津江村	昭53.5.31
6	重要文化財(建)	風浪神社本殿	福岡県 大川市	明40.5.27
7	重要文化財(建)	風浪神社五重塔	福岡県 大川市	明43.8.29
8	重要文化財(建)	旧吉原家住宅	福岡県 大川市	平11.12.1
9	重要文化財(建)	高良大社	福岡県 久留米市	昭47.5.15
10	重要文化財(建)	善導寺	福岡県 久留米市	昭63.12.19
11	重要文化財(建)	平川家住宅	福岡県 浮羽町	昭46.6.22
12	重要文化財(建)	普門院本堂	福岡県 柏木町	大2.4.14
13	重要文化財(建)	与賀神社楼門	佐賀県 佐賀市	昭25.8.29
14	重要文化財(建)	与賀神社三の鳥居及び石橋	佐賀県 佐賀市	昭45.6.17
15	重要文化財(建)	山口家住宅	佐賀県 川副町	昭49.2.5

表2-6(4) 国指定の文化財(史跡・名勝・天然記念物以外)

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
16	重要文化財(工)	刀(銘備前国長船住左衛門尉以下略)	福岡県 久留米市	昭33.2.8
17	重要文化財(工)	短刀(銘左筑州住)	福岡県 久留米市	昭36.2.17
18	重要文化財(工)	銅鐘	福岡県 柏木町	大元.9.3
19	重要文化財(工)	太刀(銘康(以下不明)伝康光)	佐賀県 佐賀市	昭25.8.29
20	重要文化財(工)	銅鐘(建久七年十一月の銘あり)	佐賀県 大和町	昭25.8.29
21	重要文化財(工)	金銅宝塔	佐賀県 大和町	平9.6.30
22	重要文化財(考)	福岡県小郡若山遺跡土坑出土品	福岡県 小郡市	平10.10.16
23	重要文化財(考)	筑後国浮羽郡月岡古墳出土品	福岡県 吉井町	昭36.2.17
24	重要文化財(書)	紙本墨書仏舍利渡状	熊本県 阿蘇町	大3.4.17
25	重要文化財(書)	紺紙金泥般若心経後奈良院宸翰付從三位惟豊添状	熊本県 阿蘇町	明39.4.14
26	重要文化財(書)	紙本墨書平家物語 覚	福岡県 久留米市	明44.4.17
27	重要文化財(書)	紺紙金泥觀普賢経(承安二年ノ奥書あり)	福岡県 久留米市	昭44.4.17
28	重要文化財(書)	紙本墨書梵網経(懐良親王御筆)	佐賀県 三田川町	昭25.8.29
29	重要文化財(彫)	木造十一面觀音立像(永興寺蔵)	大分県 日田市	昭25.8.29
30	重要文化財(彫)	木造兜跋毘沙門天立像(永興寺蔵)	大分県 日田市	昭25.8.29
31	重要文化財(彫)	木造毘沙門天立像(永興寺蔵)	大分県 日田市	昭25.8.29
32	重要文化財(彫)	木造毘沙門天立像(永興寺蔵)	大分県 日田市	昭25.8.29
33	重要文化財(彫)	木造四天王立像(永興寺蔵)	大分県 日田市	昭25.8.29
34	重要文化財(彫)	木造阿弥陀如来立像	福岡県 久留米市	大元.9.3
35	重要文化財(彫)	木造善導大師坐像(三祖堂安置)	福岡県 久留米市	大元.9.3
36	重要文化財(彫)	木造大紹正宗国師坐像(所在三祖堂)	福岡県 久留米市	大元.9.3
37	重要文化財(彫)	木造阿弥陀如来立像	福岡県 久留米市	大3.4.17
38	重要文化財(彫)	木造薬師如来坐像	福岡県 朝倉町	大元.9.3
39	重要文化財(彫)	木造十一面觀音立像	福岡県 柏木町	大元.9.3
40	重要文化財(彫)	木造普賢延命菩薩騎象像康俊作	佐賀県 佐賀市	昭32.2.19
41	重要文化財(彫)	木造廣目天立像及び木造多聞天立像	佐賀県 基山町	昭25.8.29
42	重要文化財(彫)	木造聖觀音立像	佐賀県 三田川町	昭25.8.29
43	重要文化財(彫)	木造釋迦如來坐像	佐賀県 三田川町	昭25.8.29
44	重要文化財(古)	東妙寺并妙法寺境内絵図 東妙寺文書	佐賀県 三田川町	平2.6.29
45	重要文化財(絵)	絹本著色伝北条時定像 絹本著色伝北条時宗像	熊本県 南小国町	昭31.6.28
46	重要文化財(絵)	絹本著色釈迦三尊像	福岡県 久留米市	大元.9.3
47	重要無形文化財	小鹿田焼	大分県 日田市	平7.5.31
48	重要無形民族文化財	阿蘇の農耕祭事	熊本県 一の宮町・阿蘇町	昭57.1.14
49	重要無形民族文化財	日田祇園の曳山行事	大分県 日田市	平8.12.20
50	重要無形民族文化財	大善寺玉垂宮の鬼夜	福岡県 久留米市	平6.12.13
51	重要無形民族文化財	白鬚神社の田楽	佐賀県 佐賀市	平12.12.27

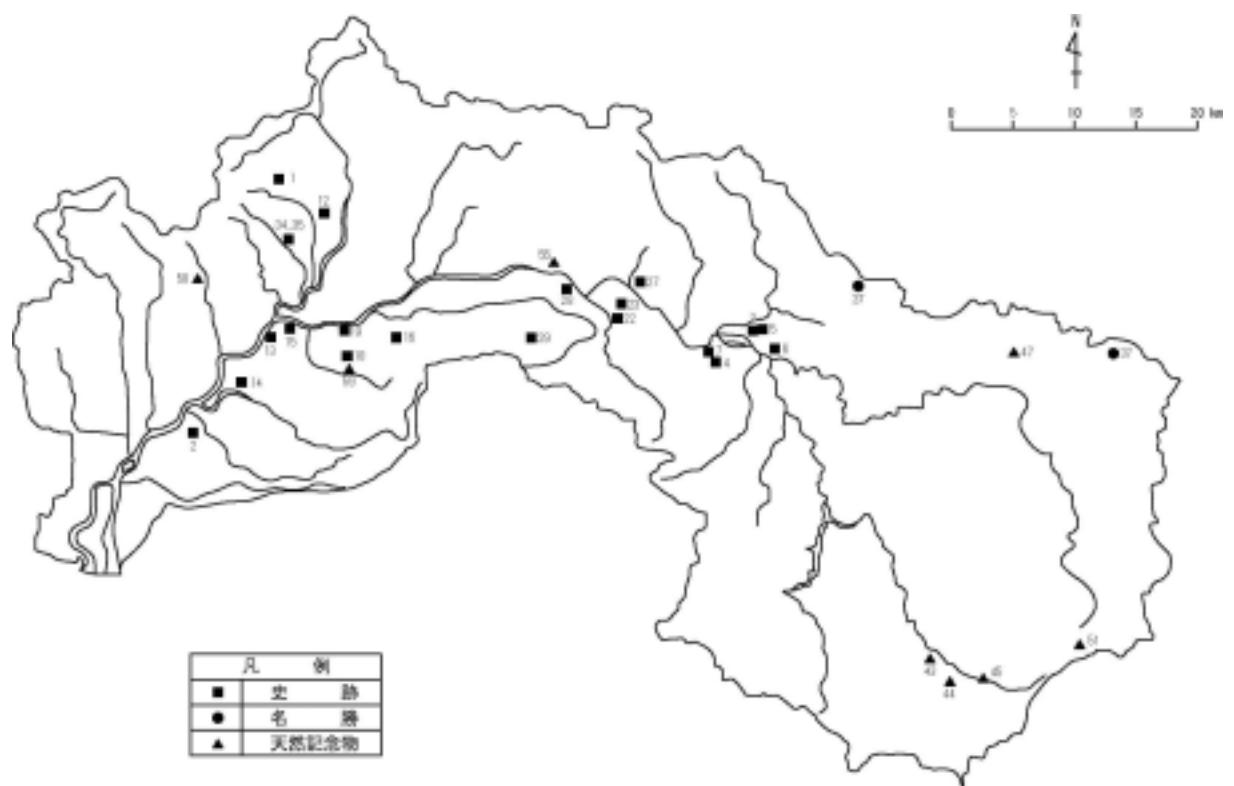


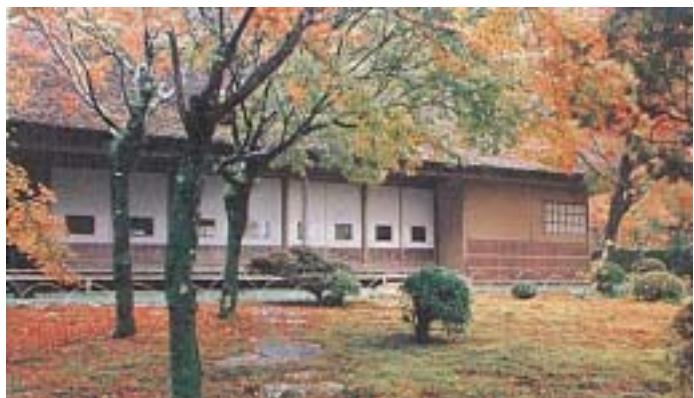
図 2 - 5 国指定の主な史跡・名勝・天年記念物位置図



神尾家住宅（大分県山国町）



平塚川添遺跡公園（福岡県甘木市）



九年庵(旧伊丹氏別邸)庭園（佐賀県神埼町）



千石山サザンカ自生北限地  
(佐賀県東脊振村)



高良大社（福岡県久留米市）



山口家住宅（佐賀県川副町）

## 2 - 4 自然公園等の指定状況

筑後川流域は自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、表 2 - 7 に示すように自然公園が指定されている。

表 2 - 7 筑後川流域自然公園の指定状況

種 別	名 称	所 在 地
国 立 公 園	阿蘇くじゅう国立公園	熊本県・大分県
国 定 公 園	耶馬日田英彦山国定公園	熊本県・大分県・福岡県
県立自然公園	津江山系県立自然公園	大分県
	筑後川県立自然公園	福岡県
	太宰府県立自然公園	福岡県
	脊振雷山県立自然公園	福岡県
	脊振北山県立自然公園	佐賀県
	川上金立県立自然公園	佐賀県

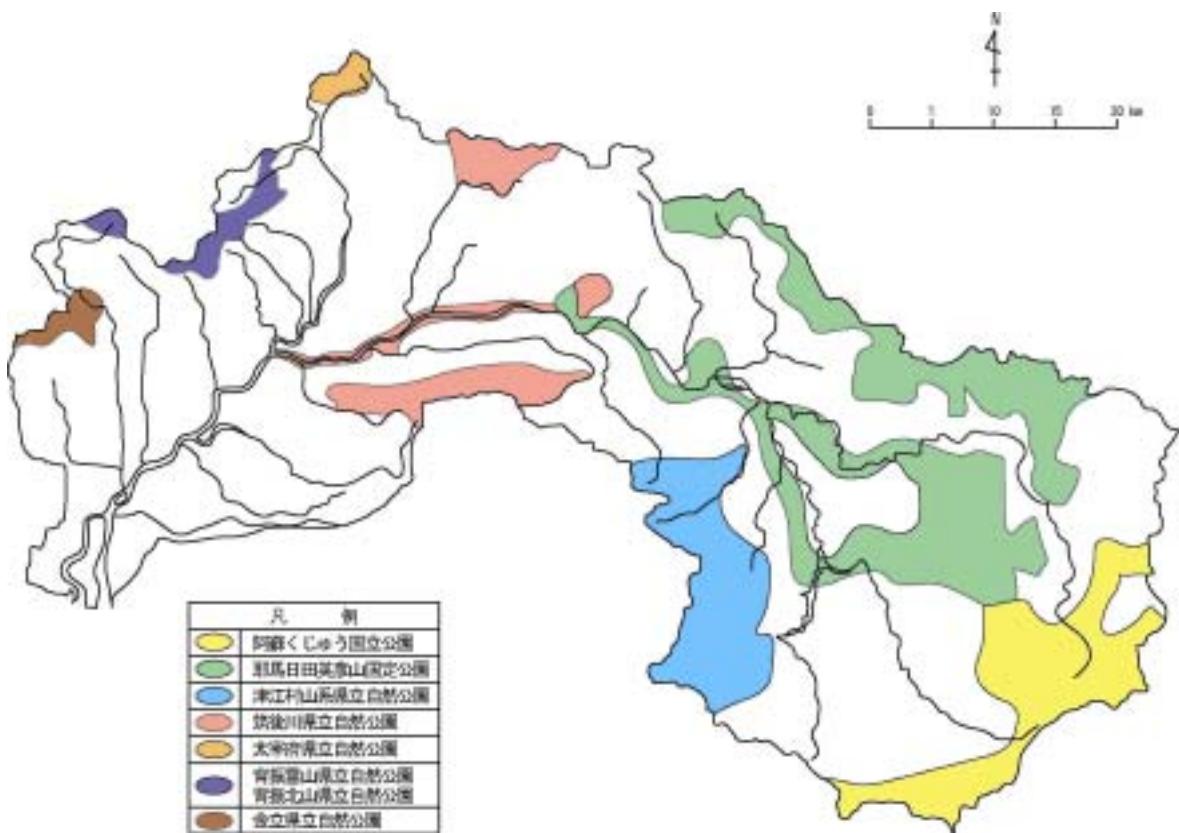


図 2 - 6 自然公園位置図